

自然の恵みを次世代へ



未来を育む 有機農業の農地

地球温暖化防止

CO₂削減

有機物の
施用

土壤炭素貯留量を増加させ、間接的に大気中のCO₂削減に繋がる

(有機農業の温室効果ガス削減量：1.04tCO₂/ha/年)

土づくり

土壤生物は土の力を維持・増進する役割を持つ

有機物を栄養源として土壤生物が増える

作物体の支持

養分供給

土壤生物が増えることによって、**土壤の機能を維持・発揮できる**

生物多様性保全

殺虫剤を
使用しない

除草剤を
使用しない

ほ場周辺の虫が増える

害虫の天敵となる虫が増える

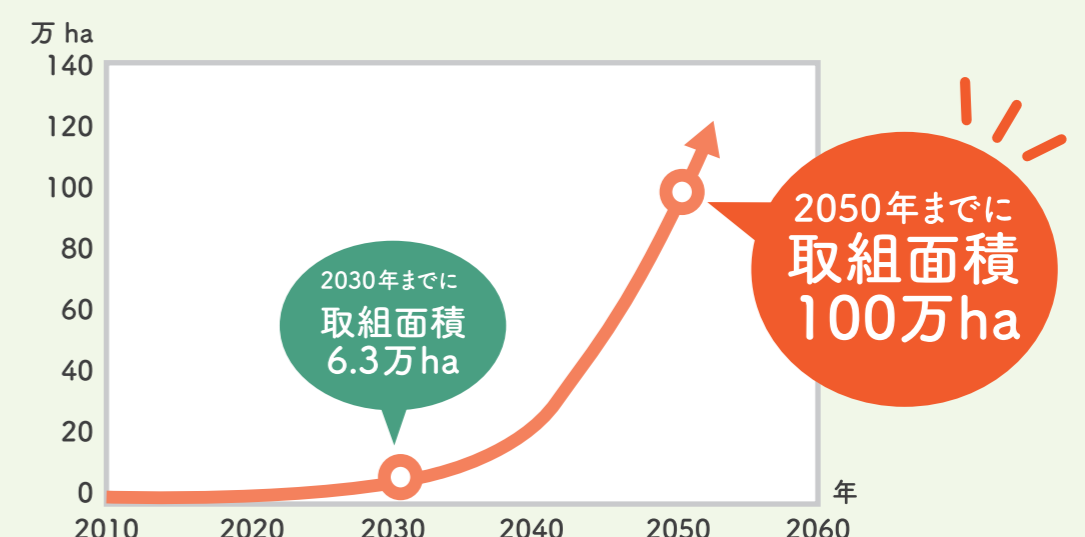
ほ場周辺の植物種が多様

植生を餌場・休息場に使用しているカエル等が増える

(広い範囲でカエル等が増えることで)鳥類が増える

結果、有機農業のほ場の周辺は、**多様な生物の住処になっている**

みなさんが有機農産物を選ぶことで農村の生物多様性や地球を守ることに繋がります。環境にやさしい消費にご協力をお願いします。農林水産省は有機農業など、環境にやさしい農業を推進し、2050年までに有機面積を100万haに拡大する目標を目指して取り組み中です。



有機食品はなぜ高い？

未来に繋がる価値ある選択を



除草剤や殺虫剤などの化学農薬を使用しない

雑草対策、害虫対策などに手間がかかる

栽培コストがかかる

除草作業の時間が増える

転換期間を要する

「有機」と名乗れるのは、有機栽培を始めてから2年以上経った農産物のみ

有機 JAS 認証を取得するためには、2年間以上*、ほ場が有機的管理をされていることが条件

つまり！
有機的管理 1~2年目は、有利販売はできない

※ 単年作物は2年、多年作物は3年

このマークが目印！

有機的管理の開始

1年目

転換期間中
有機農産物

2年目

有機農産物

3年目

栽培コスト上昇・収量低下の2重苦なのに有利販売はできないという状況

流通コストがかかる

生産者一人あたりが負担する流通コストが大きい

宅配便などを使って店舗に納品

小売店は有機農産物を取り扱いにくい

有機農産物は「慣行農産物より高い」「慣行農産物ほどまとまった量を調達できない」「慣行農産物ほど安定的に調達できない」という理由から、小売店はロスを懸念し、取扱量を増やせない

収量が下がる

化学肥料・農薬を使わないため収量が下がる



特に1~4年は下がり幅が大きい

5年以降は横ばい

有機農産物は慣行農産物に比べて1.5倍~1.8倍の価格差があります

有機 慣行

生産者の利益を確保しつつ、有機農産物を消費者の手の届きやすい価格で供給できるよう、農林水産省は、有機農産物の流通効率化等に取り組んでいます。環境にやさしい農業に取り組む生産者を応援するために、有機農産物・食品の積極的な選択をお願いします。